

5. 5 すむ：アンケート抄—Q. 我が家のスピリチュアル・スポット—

facebook「とある民俗学講師の補足メモ」

- * 家=家族を襲うさまざまなトラブルの抑止装置
- * スピリチュアルなるものは「境界」に現れる？
- * DKスタイルにおける神棚・仏壇の所在なさ
- * ライフスタイルの多様化と住宅供給のアンバランス

[いろいろ] 私の実家は岡山県倉敷市にあります。祖父が育った家です。我が家のスピリチュアル・スポットは神棚とご先祖様を祭る神壇です。神棚は全部で4つ（玄関、台所、座敷、家の隣に立っている事務所）あります。事務所と呼びはしますが、出入り口の一番近くにあり、お客さんを通す、客間のような部屋です。玄関は土間になっていて来客用のソファが置いてありますが、ここ10年ほど、使われているのを見たことはありません。事務所のは商売繁盛、座敷のものは家内安全のためにまつてあります。台所の神様のことを祖母は「おどくさま」と呼んでいます。食べるものに困りませんように、と祀っているそうです。新しく米を炊くたびに、軽く二すくいあげましています。二すくいなのは、一すくいだけのご飯は「仏様」用と決まっているからだそうです。神壇は座敷にあります。座敷はもともとあったもので、台所と事務所は後から増築したもののようです。座敷は台所から、廊下で隔てられ、間に一部屋挟んださらに奥にあります。玄関が一番近い場所ではありますが、家族は反対側の勝手口から出入りするため、一番奥という印象があります。今はもう普段の生活では使っていません。神棚と神壇のほかに、床の間に天照大神と書かれた掛け軸がかけられ、梁と天井の間のスペースには祖父の祖母の代からの遺影のような写真が飾られており、そこに入るとご先祖様に見られているのだということがうっすら意識されて、しんとした気持ちになります。

[神棚] 私の母方の。祖父母の家は、北海道釧路市美原にある一軒家で、リビングにあるテレビの真上に神棚が置かれている。祖父は朝起きると毎日手を合わせている。正月には毎年御神酒などをお供えして一年の祈願をしている。

[仏壇] 愛知県岩倉市にある祖父母の家は一軒家で、応接間にお仏壇が置かれています。私の家は曹洞宗なので、あまり派手なお仏壇ではありません。ですが、祖父は中学生のころに父親を交通事故で亡くして以来、自らが黒柱となって6人の妹と弟を養うために、仏さまの力を借りようと非常に信心深く生きてきたので、お仏壇も大きなものが置かれています。祖父の兄弟が集まった際には、お仏壇の前にある座卓を皆で囲んで話に花を咲かせています。

[仏間] 長崎県諫早市にある私の実家は一軒家である。曾祖父の代からこの土地に住み、祖父の代に一度建て替えて和洋折衷の家となっている。庭に面した仏間は、襖を外せば隣の和室と繋げることができ、ここで母の結納を行ったそうだ。私が小学生の頃にも法事で親戚が50人以上集まり、その後大勢で食事した。お盆には縁側から「ぼんさん（お坊さん）」が入ってきて両親と私もお参りする。母は朝にご飯を炊くと、家族が食べる前に器に取り分ける。これを「おっばんさん」と呼び、緑茶とともに仏壇に供える。私は普段は仏間に入らないが、正月やお盆、受験前、合格発表後などには仏壇に手を合わせていた。

[床の間] 福井県あわら市菅野の父方の実家には庭に面した大広間に仏壇がおいてあります。我が家を含め福井県では浄土真宗が盛んで所々に「南無阿弥陀仏」の文字が見られます。仏壇のすぐ横には床の間があり、以前は掛け軸と季節ごとの飾り（端午の節句の兜や天神講の焼きカレイ）などがおいてありましたが今では亡くなった曾祖母と祖父の遺影や生前の写真、焼香台やお供え物のお菓子がおいてあります。焼香台では曾祖母と祖父が亡くなった時に近所の住職さんにお越しいただいて親族だけで小規模にお焼香を上げました。また、大広間に面した廊下には神棚がおいてあります。

[遺影] 母の実家の玄関入ってダイニングに出る左手側に一家の曾祖父母と祖父の遺影がある。外祖父母の父母（私の曾

祖父母)を眺めると、やはり祖父母や母叔父叔母に顔つきが似ている。数年前まで祖父も自分と同じように遺影を拝む側だったが、コロナで亡くなってからは向こうの拝まれる側になってしまったのは寂しい(東京都大田区)。

【御札】母は、幼少期、就寝前に幻覚に悩まされていた。身の回りを、小さな子供(と思しき)が駆け回るとのことで、近所のお寺からお札をもらい、天井に添付したという。それ以来、その者たちはてんで現れなくなったという。十年前に確認したとき、そのお札はまだあった(祖父母の家、東京都三鷹市)。

【ヒヌカン】祖母宅(沖縄県浦添市)は一戸建てで、台所に「ヒヌカン」と呼ばれる神様を祀るスペースを設けています。ヒヌカンは火の神と書くかまどの神様らしく、祖母が毎日拝みを捧げています。日頃の心配事を相談する家の守護神であるだけでなく、ほかの神々に話を通すお通し処の役割もあるそうです。今もそうかは分かりませんが、母から娘に代々受け継がれるものであったそうです。

【トイレ】私の祖母は高知県幡多郡大月町にある一軒家に住んでいるが、トイレの壁に、我が家の名字が書き込まれた烏枢沙摩明王のお札を貼っている。

【盛塩】兵庫県尼崎市のマンションの部屋内のお手洗いの棚と玄関にある飾り棚の上に盛り塩を置いています。母が盛り塩を設置しているのですが、母曰く、お手洗いに盛り塩を置く理由は水回りには運氣が滞りやすいかららしく、また玄関は人の出入りが多い場所に置くことで外からの邪気を払うためだそうです。盛り塩の塩は定期的に母が交換しています。

【鬼門除け】実家は長野県北安曇郡池田町にある一軒家です。その家の裏の角が切り取られた(凹んだ)ようになっています。北東の角で鬼門封じのためにそうなっているらしいです。

【屋敷神等】私の実家は静岡県磐田市にある一軒家で、敷地内で屋外の北西の角、南向きに地の神様というものが木製の小さな祠に祭られている。祖父母と別居するようになってから、管理をおろそかにしていたため、劣化したまま放置されているが、今までは古くなったら12月15日に前より少し良い祠を購入し、拝んで入れ替えていたようだ。さらに周りをきれいにし、赤飯となますを竹の皮(または、藁のつと、はらん、祖母のころはへぎ木を紙のように薄く削ったもの)にのせてお供えしていたらしい。これは祖母から聞いた話で、私自身が行った記憶はない。

【祠堂】中国、四川省にある私の実家では、中国共産党による四旧打破の活動のため、仏壇やそれに類する宗教的なものは最早現存しません。しかし、一族の系譜を中心に重要な人物やその事績、家訓などが記された『族譜』と呼ばれるものがこの活動を生き残りました。これは現在も追記されており、私の名前も載っているそうです。これと先祖の位牌などが納められた祠堂が、実家の敷地のはずれにあります。これは瓦で葺かれたレンガ造りの建物で、画像検索して出てくる有名なものより一回り小さいです。中は4共30教室の半分くらいの広い空間があり、奥には族譜などが仕舞われる部屋があります。盂蘭盆などの祖先を祭る行事や結婚式などのほか、家もかかわる行事にも使われていたそうです。

【寺社・教会】大阪府堺市北区金岡町にある私の実家の隣には祖父母の家は浄土真宗佛光寺派の寺院である。本堂の起源は室町時代だが、大坂夏の陣で堺は徳川方の兵站基地であったために豊臣方に焼き討ちにあい、その被害を受けて全焼、現在の本堂は江戸時代に再建されたものだ。快慶作と伝わる本尊、阿弥陀如来立像が中心に置かれている。本堂の右側には仏像ではなく浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の肖像画が、また左側には江戸時代に宗派の本山、佛光寺の門主だった隋庸の肖像画が安置されている。

【記念品】実家は神奈川県横浜市にあるマンションの一室なのですが、両親が年に一回寒川神社に参拝、祈祷に行った時に持って帰る木札が廊下に置いてありました。その周りには記念品でもらったフェイクフラワーやお土産の赤べこなどが置いてあり、特段スピリチュアルな場所ではなかったと思います。